

1 ねらい

友人からの依頼に応えることと社会的に迷惑になるような行動を自制することの間に起こる葛藤について話し合う中で、迷惑メール（チェーンメール）に対する知識を身に付け、不適切な情報を認識できるようにする。

2 手だて

考えキャッチシートを活用する。最初に、①へ自分の考えを書く。次に、話し合いをする中で、友達の考えを立場ごとに分けながら②に書き入れさせる。最後に、友達の考えを踏まえて自分の考えを③に書き入れ、再構築することができるようになっている。

名前「 」		話し合いのテーマ「ペットをもらって！」	
友達のことを書く			
はじめの自分の考え(どちらかに○) (ほくは友達に、メールを (送る・送らない) べきだと思います。理由は、 このメールは迷惑ではないと思います。 ペットが処分されてしまうのはかわいそう なので私はメールを送るべきだと思います。	送る (A) さん ペットが処分されてしまうから。	送らない (D) さん 相手が悪い人かもしれないから。	話し合い後の自分の考え (ほくは友達に、メールを (送る・送らない) べきだと思います。理由は、 本来にペットが処分されるのかわかり たくないし、チェーンメールを送ることは、社 会の迷惑になるので送らない方がいいと考 えが変わりました。
①	送る (B) さん 友達のためになるから。	送らない (E) さん お父さんに止められているから。	③
	送る (C) さん 迷惑にはならないから。	送らない (F) さん 相手の迷惑になるから。	
	送る () さん ②	送らない (G) さん チェーンメールは送ってはいけないから。	
色分けの意味 送る 送らない	【考えキャッチシートを用いて話し合う】		

3 実践の様子

ペットが処分されてしまうので、もらい手を探しています。という内容のチェーンメールが友達から送られてきた主人公が、そのメールを次の人に「送るべきか、送るべきでないか」ということについて話し合いを行った。

はじめに教師が資料の内容を児童に読み聞かせをした。「どっちにしようかな」「僕、決めたよ」など、資料の物語を聞いた後、周りの子と話している様子が見られた。資料を聞いて話し合おうとする意欲の高まりを感じた。

次に資料を聞いて、自分が送るべきかと思ったのか、送るべきではないかと思ったのかを考えキャッチシートに記入させた。学級全員でそれぞれの考えを共有できるように、一人一人の意見を画用紙に書かせ、黒板に貼らせるようにした【写真A】。この時点での、それぞれの立場の児童の人数は、送るべき18名、送るべきでない22名だった。

そして、自分の考えをもとにして、学級で話し合いを行った。話し合いで出た意見は、教師が整理して黒板に書くようにした。児童は自分が参考になると思った意見を、考えキャッチシートに記入しながら話し合いに参加した。送るべき、送るべきでないというそれぞれの立場の意見を分けて書かせるようにした。意見を分けて記入させることで、考えの違いが一目で分かるようにした。

最後に、教師から他のパターンのチェーンメールの紹介をして、チェーンメールは決して送ってはならないことをおさえた上で、最後の意見をまとめさせた【写真B】。



【写真A】



【写真B】

4 成果と課題

- シートを用いて、友達の意見を取り入れながら、最後の自分の意見をまとめることができた。自分の立場の意見ではなく、相手の立場の意見も取り入れて考えを書くことができた。
- チェーンメールの危険を自分のこととして、十分に理解できない児童もいた。